

発刊の辞

長崎大学経済学部の前身である長崎高等商業学校は、1905年（明治38年）3月28日勅令第96号により設置され、同年9月2日から授業が開始されました。この授業開始の3日後の9月5日は、ポーツマス条約が締結された日になります。

こうした設立時さらにはその後の時代的背景があつてのことと思いますが、長崎高等商業学校（1944年（昭和19年）に長崎経済専門学校に改称）は、当時のアジア諸国に関連するさまざまな資料を収集していました。その内訳は、約9,900点の図書、約200社の営業報告書、約750タイトルの雑誌です。これらは、現在では、東南アジア研究所の書庫に所蔵されていますが、その特徴は、次の点にあるでしょう。

まず、発行年で見ると、1920年（大正9年）頃から1944年（昭和19年）までに発行されたものが中心となっていることです。戦時中の資料も多数含んでいますが、本学部では、これらを「戦前期文献」と呼ぶ理由はここにあります。

二つ目は、収集した図書の約4分の1が、台湾、朝鮮、満州、関東州等の旧植民地関係の機関が発行したものであるということです。このことは、長崎高等商業学校が教育研究活動に取り組んだ時代的背景とも関連していることと思います。

本学部で戦前期文献の資料整理が始まったのは、1989年（平成元年）です。1993年（平成5年）から1995年（平成7年）にかけて、本学部の松本睦樹助教授（当時）と東南アジア研究所の江頭紀代美さんが、本学部紀要『経営と経済』において、「長崎大学東南アジア研究所所蔵旧植民地関係機関等刊行物について」というタイトルで、その成果を発表しています。その後も、東南アジア研究所に勤務された職員の方々が資料整理に携わってこられました。最近では、江頭紀代美さんと宇戸一子さんが、日常業務の傍ら、資料整理をしてこられました。また、今回の目録としての刊行にあたっては、本学部柴多一雄教授からも多大なご協力をいただいています。

資料整理にあたっては、ここにお名前を記した方以外にも、多くの方からご協力をいただきました。これまで資料整理に携わってこられた方々に、この場を借りて、心から御礼を申し上げます。そして、この目録の発刊を機に、多くの方が本学部の戦前期文献を利用していただくことを祈念して、発刊の辞とさせていただきます。

平成26年2月10日

長崎大学経済学部長

岡田裕正